

ジューテック本社ビル

JUTECH HEAD OFFICE

No. 05-077-2023作成

新築
事務所

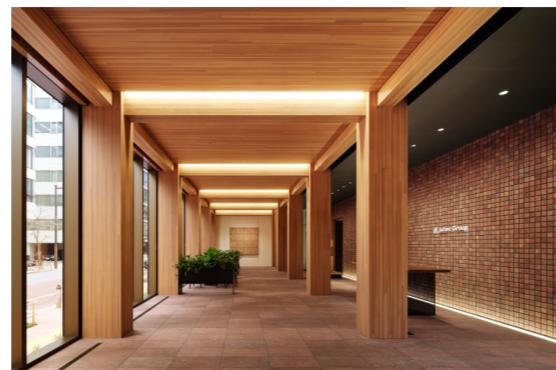
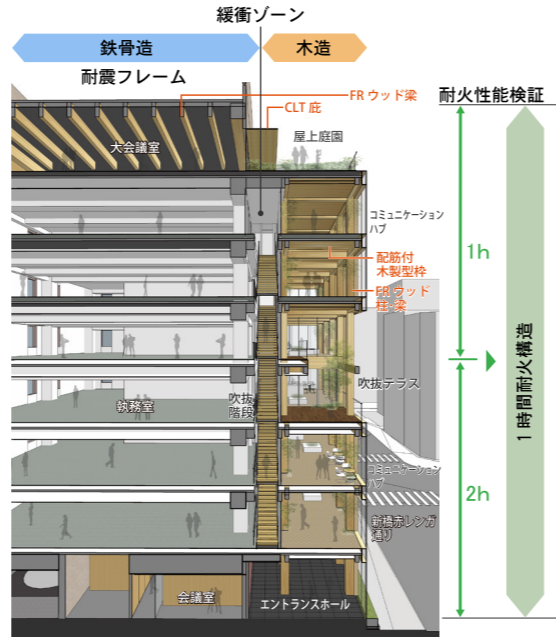
発注者	株式会社ジューテック	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB
設計・監理	KAJIMA DESIGN		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携
施工	鹿島建設		I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他

街と交感する都市型木造を目指して

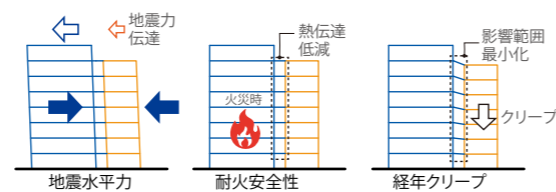


景観形成を先導する木架構を表出するファサード

新橋発祥の地元企業の本社として、良質な街並形成に貢献する建築の在り方を追究した。建物は凹型の敷地形状を活かし、地震水平力・経年変位・耐火性能など木質構造の課題解決に向けて3つのブロックで構成した。西側に「執務ゾーン」（鉄骨造）、「緩衝ゾーン」を挟み、東側・新橋赤レンガ通りに面して多様な活動を促す「コミュニケーションハブ」（木造）を配している。木造エリアは長期荷重のみを負担し、水平力は「緩衝ゾーン」のコンクリートスラブを介して鉄骨エリアに伝達する垂直分割ハイブリッド構造であり、耐火性能検証法を活用し地上階全てを1時間耐火構造としたスレンダーな木架構とした。開放的な階段でフロア間を結び部門間の交流を活性化するとともに、高透過ガラス越しに木架構を表出し、街に開き企業活動や理念を広く発信することを企図した。



新橋レンガ通りに開かれたエントランスホール



建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価	
所在地	BPI 0.79	Aランク	
竣工年	BEI (モデル建物法) 0.79	BEE=2.4	
敷地面積	LCCO ₂ 削減 12%	2016年度版 自己評価	
延床面積			
構造			
階数			

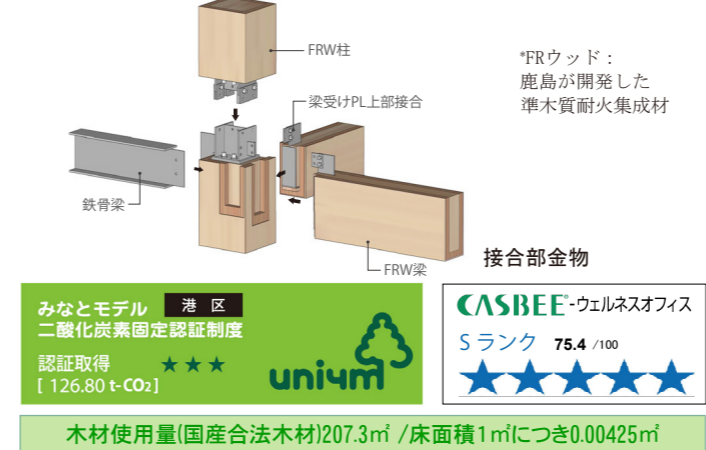
木に包まれた多様な働く場の創出

高天井でスレンダーな木架構に吹抜テラスを組込むことで外部と柔らかく繋がり、吹抜階段により執務室と一体となったワークスペースの回遊性と多様性を創り出している。



木架構 柱梁接合部の開発

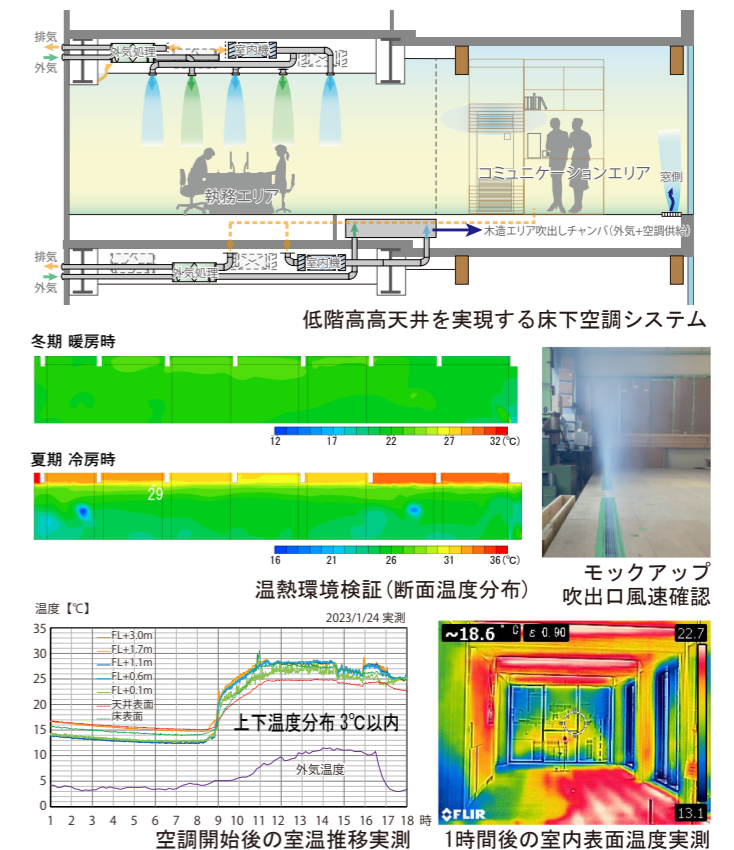
柱・梁接合部の金物は木板の後貼がなく、鉄骨職人が建方可なディテールを開発し、*FRウッドで初めて中規模多層型ビルを実現した。二酸化炭素固定量は126.8t-CO₂であり、みなとモデル二酸化炭素固定認証制度で最高ランクの★★★★を取得した。



設計担当者 統括：上岡修/建築：原嶋宏樹、小澤徹治、五十嵐麻美、長根乃愛/構造：佐々木直幸、土合博之、伊佐治勝大、鈴木淳史/設備：弘本真一、上村健、神谷麻理子、中村佐和子、藤本啓汰

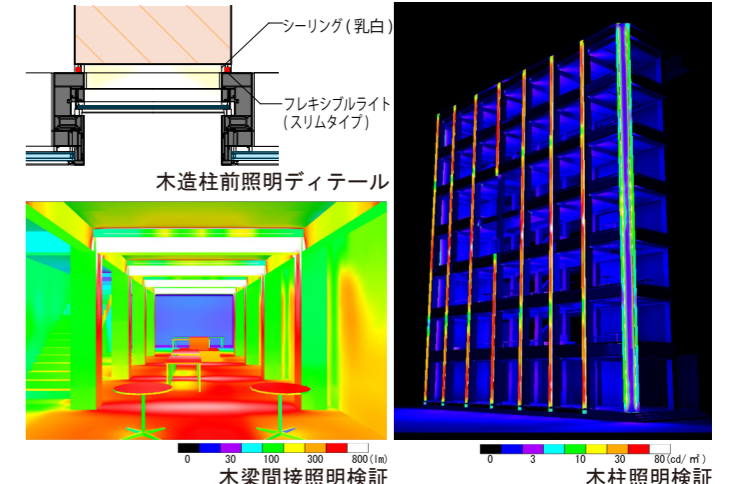
木の空間を支える空調システム

木エリアはスラブに木板を先付したスチールデッキ型枠をそのまま内装仕上とし、階高4mで天井高さ3.5mを実現した。下階の鉄骨エリア天井内に室内機を設置し、床下SAチャンバーによりペリメーターを空調して効率化を図り、木架構を魅せる設えとしている。CFD解析や実寸大モックアップにより、立上りや風量ばらつき有無を検証し実現した。



木架構を魅せる照明計画

外装カーテンウォールは木架構固有のプロポーションに同調させ、新しい骨格の在り方を出表するファサードである。柱際・梁際の間接照明により街の夜景にも彩りを添える。



主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2.2 耐用性・信頼性 (合理的なハイブリッド構造/繰返し変形に対応した仕口/BCP非常用電源供給72h 上水高置水槽)
- Q3.1 生物環境の保全と創出 (自然植生を活かした植栽/屋上庭園)
- Q3.2 まちなみ・景観への配慮(木造ファサード・景観形成/地域素材によるエントランスホール)
- LR1.1 建物外皮の熱負荷抑制 (BPI=0.71 Low-eガラス ロールブラインド 開口率の低減/自然換気)
- LR1.3 設備システムの効率化 (ペリメーター床下空調による効率化・居住性能向上/LED間接照明 明るさ感向上)
- LR3.1 地球温暖化への配慮 (環境配慮コンクリート エコクリートR3・BLS/国産合法木材 二酸化炭素固定)